

大学等名：岐阜工業高等専門学校

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・テーマⅡ（学修成果の可視化）複合型

高専での教育課程科目の全てに対して半期に1回以上のアクティブ・ラーニング（AL）を取り入れ、非教育課程活動と教育課程学修でのALの成果を、実践技術単位制度により可視化する。モデルコアカリキュラムの教育の質保証を意識した教員目線のコンテンツと、学生目線の学習補助コンテンツの両者のサーバへの集約と配信、教室のICT環境改善により、能動的な教育改善と学修成果の可視化を推進する。

高専教育のアクティブ・ラーニングへの転換と学修成果の可視化・定量化による見える化

①これまで：実験実習系科目でのALの活用と、もの作りリテラシー教育等のアウトリーチ活動への展開を進め、地域連携等による高専創設50年にわたる工学教育分野での成果を発信してきた。



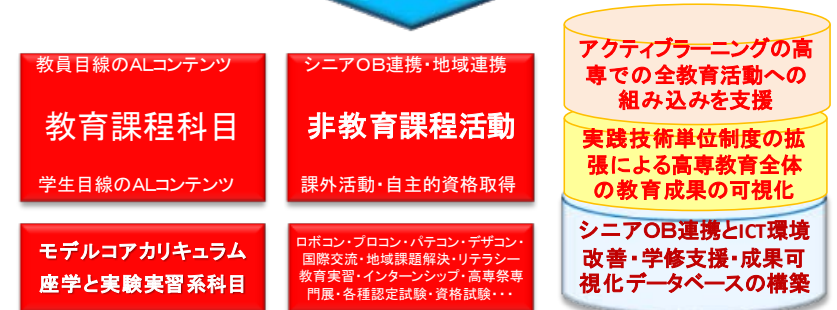
電気情報工学科では実践技術単位制度により、非教育課程活動の学修成果の可視化を推進し、その教育効果を分析・発信してきた。

②本取組にて加速される教育改革と事業成果：**ALを全ての教育課程へ展開・拡充**することにより、社会や経済環境の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。また、「**実践技術単位制度**」を全校展開し、高専での**教育課程学修と非教育課程活動の全てを学修成果として可視化**することにより、幅広い場で活躍する**多様な実践的・創造的技術者の養成**を目指す。



カリキュラム モデルコアカリキュラム 本事業の後期(H28-30) ・学生目線の学習補助コンテンツの学生による作成と活用を 実践技術単位化し評価・蓄積 ・地域やシニアOB連携の活用	実践技術単位制度 本事業の後期(H28-30) ・アクティブ・ラーニングによる個々の教育成果の見える化 ・実践技術単位データベースによる学修成果全体の見える化
カリキュラム モデルコアカリキュラム 本事業の前期(H26-28) ・教員による全教育課程科目へのAL導入・学修支援教材開発 ・全教室のAL用ICT環境改善とALコンテンツ開発環境充実	実践技術単位制度 本事業の前期(H26-28) ・課程科目や他学科への展開 ・共通実践技術単位制度の導入(国際化・チームワーク・サイエンスボランティア...)

高専教育全体の学修成果の可視化



教員目線と学生目線で**アクティブラーニング**を高専の全教育活動に展開し、学修成果を見る化する **実践技術単位制度**による教育成果全体の見える化

APIによる進展	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
AL受講学生割合	100%	100%	100%
AL実施科目割合 実践技術単位拡張割合	20%	60%	100%
授業外学修時間	6時間	12時間	18時間